



はじめに

21世紀を迎え、これからの横浜をより自立性の高い都市にしたいと考えています。「市民生活の安全・安心・安定」の確保を基本に据え、暮らしに必要な要素がより充実したまち、市民が生活を楽しめるようなまちづくりを、市民の皆さんとパートナーシップで進めていきたいと考えます。

今回の市民生活白書では、人口346万人、わが国第二の大都市である横浜における「市民の暮らしやすさ」を取り上げました。横浜の暮らしやすさはどのようなものか、また、以前と比べてどうなのか。

市民の暮らしやすさは、それぞれの都市の歴史や特性によって醸し出されるものであり、都市間の比較は単純にはできません。「住めば都」といわれるように、市民の都市への愛着やふるさと意識などによっても感じ方は異なってきます。

横浜には横浜ならではの「暮らしやすさ」があり、他の大都市や地方には、その都市でしか得られない「暮らしやすさ」があるでしょう。

近年、さまざまな都市ランキングが発表されていますが、よく人口1人当たりの数値で都市を比較しています。大都市には、身近な所にさまざまな種類の施設があり、利便性や選択性が高いわけですが、人口1人当たりの数値では必ずしもこのような大都市の暮らしやすさを表現することができません。

そこで、この白書では、通勤や買い物、子育て、高齢者介護など、市民の暮らしやすさを客観的にわかりやすく示せる「暮らしやすさ指標」の作成を試みました。

今回の暮らしやすさ指標は、他の大都市と比較することによって、横浜の実態や特

徴、課題をあきらかにしようとしたものですが、他都市と比較しにくい横浜独自の暮らしやすさについても分析しました。

この白書では、1章で家族や仕事など市民生活の変化を、2章で横浜の暮らしやすさの分析を試み、3章で地域にみる横浜の暮らしやすさをレポートし、4章で横浜の都市イメージを分析し、横浜の国際都市戦略を紹介しています。

この白書が、横浜の暮らしやすさについての共通の理解を育み、これからのまちづくりのお役に立てれば幸いです。

平成13年11月

横浜市長 高秀 秀信